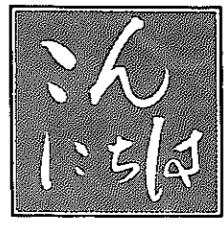


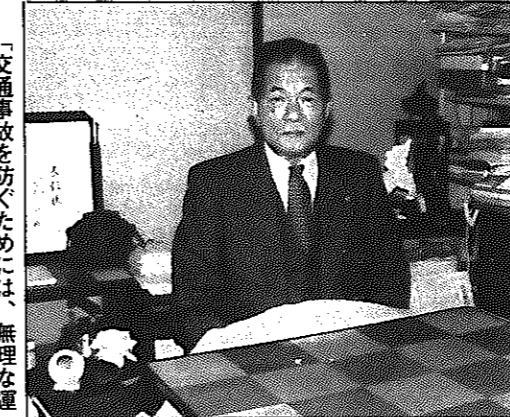
まちかど

優良運転で緑十字金賞を受賞

丸山一郎さん (一の町三・会社社長・67歳)



街頭指導に立つ丸山さん・白根地区交通安全協会では、定期的に街頭指導を行っており、交通安全運動期間中や大嵐合戦のときには大活躍します



「交通事故を防ぐためには、無理な運転をしないことが大事」と語る丸山さん

一月十九日、東京で開かれた、第二十四回全国交通安全運動国民運動大会」で、丸山一郎さんが緑十字金賞を受けました。この賞は、優良運転者としては最高の栄誉で、市内では初めての受賞です。丸山さんは、昭和二十六年、交通安全協会が結成されたのと同様に入会し、四十年に白根支部長、五十一年からは副会長に選ばれ、協会の育成と交通事故防止活動に取り組んできています。丸山さんが免許を取得したのは昭和十九年。「あのころは、ドラ

イバーの数も少なく、車といっても、ほとんどが木炭自動車で、スピードも二十五キロくらいしか出ないものでした」と当時を振り返ります。それ以来四十年間、無事故無違反を続け、これまでも交通安全に努めた功績で、県知事表彰、緑十字銅賞・銀賞を受けています。「無理な運転をしないように心がけてきました。それに年をとると運転が慎重になりますね。道路の脇で子供が遊んでいたりと車に気づいていないんじゃないかと警戒します」。

また、丸山さんは、交通安全協会の活動として定期的に街頭指導を行っています。「中には無茶な運転をする人がいます。免許を取ったばかりのころは、みんなおとなしい運転をするんですがね。そのときの気持ちをいつまでも忘れないでほしいと思います」。日ごろ車を運転する機会が多いという丸山さんは「これからも安全運転を呼びかけながら、自分でもずっと車の運転を続けていきたい」と語ってくれました。

伝染病で死んだ子供の霊を慰める

語る人

橋本圭三郎さん(五八)
(山崎興野)



昔は、この地藏様のところが火葬場になっていたんですが、明治の初めころ、コレラなどの伝染病が大流行し、多くの子供が死んで一日に数体もここで焼かれたそうです。その様子があまりにも悲惨だったので、村人たちは子供の霊を慰め、子供たちが立派に育つよ

うにと、ここに地藏尊を建てたという事です。一時、部落の用水路が満水になっていたところへ、しばしば子供が落ちたことがあります。一人も死なずにすんでいます。また部落を通る県道も交通量が増えましたが、交通事故で死ぬ人もいません。これは地藏尊のご利益というわけで、明治、大正、昭和と、熱心に祭りが続けられています。子供のころ、祭りになると、ここ

私の思い出 昔のわが街

にやぐらが建てられ、昇って新潟の川祭りの花火を見たものです。



山崎興野の子育て地藏



★有願

新飯田の僧である。文化年間(一八〇四―一七年)から子弟を集めて教えた。海翁と号し、南蒲原郡大島村代官新田の田沢家に生まれ代々里正の家である。出家して燕市の万能寺の住職となり、新飯田の円通庵に隠居した。

良寛の最も親しい道友で、言い伝えによれば臨終の時、手書して良寛を招き、そのひざによって瞑目したという。詩画にすぐれ、その書はひどく良寛に似ていたといわれる。

(大愚良寛、北越詩話から)



新飯田砂原乙にある円通庵



「私の思い出 昔のわが街」欄へあなたの思い出の場所を。連絡は企画財政課広報広聴係へ。